



【 ちょっといい話（心温まる行為） 】

○ 前の日曜日、私は体力つくりのため、庄川の堤防や富山県西部体育センターの方をジョギングしていました。すると、約20離れた所から、「**校長先生!**」という声が聞こえました。私は「はい。」と言って立ち止まり、声のあった方を見ました。でも、よく顔が分かりません。数秒間、私は見続けていると、**2人は走って私の方に近寄ってきました。**



○ そして、「**井波小学校の〇〇です。**」「**〇〇です。**」と言ってきました。マスクを外しており、私服だったので、日頃のイメージとは異なっていました。しばらく話をして、2人は「**じゃ、校長先生、また明日!**」と言って、元の場所に走って戻りました。私も、「**声をかけてくれてありがとう。**」と言って、ジョギングを続けました。

○ 私は声をかけてくれたことに、**大きな嬉しさ**を感じました。同時に、2人に**感謝**しました。挨拶や声をかけてもらうことは、やはり嬉しいものです。ましてや、学校外においては、格別です。**人間関係の深まり**を感じます。2人は、今後、**社会の中で温かい人間関係をつくりながら、幸せに暮らしていく**ものと確信しました。

○ もう一つです。昨日の朝、私が挨拶運動をしていると、小雨が降ってきました。多分、朝は降らないだろうと思っていた人が多かったと思います。実際に、小雨が降っているのに傘を持たずに登校した子供が多く、服やランドセルが濡れていました。私は何人かの子供を私の傘の中に入れ、玄関まで一緒に歩きました。



○ しばらくして、微笑ましい光景を見ました。**6年生男子が1年生男子を、自分の傘の中に入れて歩いていた**のです。何十人、何百人も登校している中で、初めて見た光景でした。1年生の子供は**嬉しかった**ことでしょう。**感謝**していることでしょう。6年生の子供の「**自分の傘に入れてあげたい**」と思う**温かい心**が強く伝わりました。